

■ 1984年 8月20日 第三種郵便物承認

毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

■ 発行人

関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F 定価100円



KSKP  
No.91

# がいづぶり 通信

## 「ぴかつとアート」入選作品

青やピンク、オレンジなど、  
やさしい色で彩られた  
陶器のランプシェード。  
灯りをともすと、  
とてもロマンチックです。



湖南ホームタウン Uさん

題字 酒井雄哉大阿闍梨



衆議院議員  
一般社団法人全国肢体不自由児者  
父母の会連合会会長  
**清水 誠一 氏**

任。地元だけでなく北海道、全国と障害福祉に尽力し、現在は、財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会会长、一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会会長を務めている。

## かいづぶりエッセイ vol.27

### プロフィール

1949年帯広市で生まれ。  
1983年帯広市議会議員に初当選し2期、北海道議会議員5期を務めた後、2012年衆議院議員に初当選し現在に至る。  
1987年帯広心身障害者(児)育成会会长(現在は顧問)に就

### 格差のない社会をめざして

昭和58年、帯広市会議員に初当選し政治の世界に入りました。そのきっかけは自分の子供の障害に気づき、訓練所の子供たちの療育や教育の在り方に疑問を持ったことです。また大型店の地方進出で大資本が地方を席巻していました。弱者はいつまでも弱者なのか、“政治の光は誰にもどこにも何時でも照らす”という所信をもってこの世界に挑んできました。

近年、障害児福祉は措置制度から支援費制度、障害者自立支援法から障害者総合支援法と大きな変遷をとげてきました。しかし現在の国の政治の方向性である「地方分権」「規制緩和と行政改革」の流れの中に障害者施策も置いて良いのかどうか疑問です。私は障害当事者や父母の会の皆様の期待に応えられるかどうかの正念場と感じています。自立への道は「収入・サービスの量と質・住まい・医療・療育・移動の確保」。これは日本中どこでも享受できる格差のない社会でなければなりません。

平成25年4月スタートの障害者総合支援法は、三年後の見直し条項がありますが、今後この見直しの時にこそ将来を見据えた現実に沿う課題解決の時であると思っています。

私の伴侶のふる里は二宮尊徳翁の孫が開拓した北海道豊頃町二宮地区です。その報徳訓の一節に「今年の衣食は昨年の産業にあり、来年の衣食は今年の難難にあり、年々歳々報徳を忘るべからず」とあります。明日を良くするためには、今日の難難を糧とし過ぎる日に感謝を捧げ、先人に習い父母の報徳を胸に刻むことが大事である。そのことを肝に銘ずる今日この頃であります。

## CONTENTS コンテンツ

〈特集〉	理想のシェアハウス考える。 [Part.3] “介護ボラつきシェアハウス”つて? 家族の愛とは違うスタイルで、障がい者を理解してくれる 友達のような関係のシェアハウスを提案!	2 ~ 4
〈レポート〉	◆第57回滋賀県肢体不自由児者福祉大会開催!! ◆湖南ホームタウン地域貢献事業 「おたがいさんネットワーク(=ONW)」の紹介	5
〈インフォメーション〉	◆親子療育キャンプの開催について ◆守山市いけばな展に参加します ◆Dr.植松のQ&A	6
〈トピックス〉	◆「水害対応に関する取り組み」というテーマで、 NHK大津放送局の取材を受けました ◆縁の下の力もちサン	7
障害者権利条約ってなに?		8

## 理想のシェアハウスを考える

～障がいのある人たちとの安心安全で心豊かな暮らしの実現に向けて～

Part.3

## “介護ボラつきシェアハウス”って？！

### 家族の愛とは違うスタイルで、障がい者を理解してくれる友達のような関係のシェアハウスを提案！

鼎談者

植松久仁子さん(大津市障害児者と支える人の会会長)

植松潤治先生(湖北グリープクリニック院長)

乗光秀明(当理事長)

最近ブームになっているハウスシェアリングやルームシェアリング。そこに障がい者や立場の弱い人、高齢者を対象にしたシェアハウスができるんだろうか？そんな発想から「理想のシェアハウスを考える」をテーマに、1回目は信楽でスタートした互助型の生活ホーム、2回目は制度の中で運営しているグループホームの取り組みを紹介してきました。最終回に入る前に、まだ漠然としたシェアハウスのイメージを確かなものにするために、かいづり編集側として、どのようなシェアハウスを求めているのかを、この記事を企画した関係者3人の鼎談で探っていきます。

#### 共に暮らすには介護、介助だけではなく、話し相手が大事。

**乗光** 私たちがイメージしているシェアハウスは、フォーマルな福祉サービスとしてのケアホームではなくて、個人的なインフォーマルなものなんです。お互いに助け合いながら、共に暮らすというスタイルのシェアハウスをイメージしているのですが。これまでにある、ケアホームとかグループホームでは精神や知的障がい者が中心で、重度の身障者は入っていません。果たして互助とかシェアというスタイルで重度・重症の人も一緒に暮らせるのか。まずは、重度の身障者のケアに必要なことを考えてみたいと思います。

**植松(久)** 昔だと重症心身障害児者(重心)といわれる人は小さい時からの施設入所を考えたようですが、最近は在宅医療になってきています。在宅で子どもたちの喜びとか、楽しみとかいろんなことを経験してきた世代の親にしてみれば、どんなに大変でも施設等に任せることはしないなく、ジレンマに陥っている状態ですね。

重度障がいの子どもを持つ家庭は、いわば自分の人生をその子に与え尽くしているようなところがあって、ほぼ1対1に近い状態

です。今はいろんなヘルパーさんを家に入れて介助面は助かっていますが、内面的な自己表現の代弁者は私です。「本当は嫌だったのね！」とか「これはステキやね！」とか、今日会ったことを聞いたり日々違う様子を受け止め明日につなげています。

**乗光** 時間的制約があるヘルパーさんの場合は、介護するのが精一杯なんですね。話を聞くことは計算に入っていない。そこは親の役割になってしまいます。親元を離れたらこうした心のケアがなくなる。単なる介護、介助だけになってしまうということですね。

**植松(久)** そうなんです。ですから私たち親のような話し相手が大事だと思っているんですね。実は事情があって10日近くショートステイをお願いしました。そうしたら、熱をだし、体重も減り、気持ちも不安定になりました。医療の整った病院型の受け入れだったので、事なきを得ましたが、そうでない場所では、不可能だと痛感しました。ですから、私たちの手から離れた生活の場で、愛情関係の表現を大事にしてくれるような場所が保障できないかなというのが、願いとしてはあります。

#### 気持ちを許し合って、関係に貸し借りのない人とシェアする。

**植松(久)** 何もできない子どもからでも、何か与えてもら



▲植松久仁子さん  
(大津市障害児者と支える人の会会長)  
ミキサー食でお座りもできない全面介護の必要な長男(26歳)に、毎日、愛情を注いで暮らしているが、親の体力の低下と、長年の介護への限界を感じ、将来への不安を感じていると話す植松久仁子さん。



◀理想のシェアハウス  
1階が障がい者のケアホームで2階を若者のシェアハウスの部屋にして運営。家賃を安くして、障がい者の介護を交代で手伝う、障がい者と共に暮らすシェアハウスのモデル。中では一人のキーパーソンが介護に関わる人をコーディネートする。

「介護ボラつきシェアハウス」とは？

フォーマルな福祉とインフォーマルな福祉がハイブリッドした形を持っているシェアハウス。

- 1)安価で快適なシェアハウスに介護ボラの条件がついている
- 2)制度を活用したグループホームに、ボランティア的住人がプラス

うことってあるんですね。娘は仕事で疲れ果てて帰ってきたときに、重度障がいの長男の横で添い寝するんです。いろんな人間の雑多な感情の間でもまれている娘は、別世界を持っている兄の側で癒されるんですね。家族に与えてくれているものを、同じように学生さんとか、一般社会の人たちにも通じないのかなと、思うんです。

**乗光** そのような日常の障がい児者との関わりから癒しが得られると云うようなイメージとなると、それは職員には求められないですね。シェアという言葉に含まれるような関わり合いなら可能かも知れません。

**植松(久)** そうですね。内面の代弁者となる話し相手は、家族以外にはいません。周りにいるのはヘルパーさんとかキーパーさんになります。ですから、介護する人は、ホームヘルプにお願いし、話し相手はシェアハウスの一人がキーパーさんとなって、シェアハウスの皆とコミュニケーションを交わすように盛り上げてもらう。話ができなくても、その仲間に加わっている感覚ですね。

**乗光** ただ、母の愛は母の愛として置いておかないといけない。母と違う愛でその人を理解していくというスタイルなんです。家族と同じような立場ではなくて、愚痴を聞いてくれる友達とか、自分を了解してくれる人。みんなで協力して住まいを一つにした仲間が必要になってくるのではないかと思います。では、どんな人がこの理想とするシェアハウスに向いているのかというと、気持ちを許し合って、関係に貸し借りのない人ですね。以前、親、ボランティアと学生をまじえたシェアハウス型の長屋を作ろうという話があったんです。学生に施設の2階に無料でいいから住んでもらい、週に何回か手伝ってもらう。それを運営するための株式会社をつくり、資本金をためてアパートを建てる。株券を次に入れる人に売って出る。そういうものを作ろうとね。

**植松(久)** 都会のシェアハウスでは、それぞれ魅力的な様々な人たちと一緒に暮らしていますね。その中に一人ぐらいために、皆さんで分担して介護していただくという暮らしあり考えられると思います。もちろん、個人の犠牲の上に成り立つ介護はないと思います。職員の方も含め、介護に関わる人たちが幸せな生活を送っているからこそ、そこで介助される人も幸せになれるんです。

#### ヘルパーを統括するキーパーソンが必要！

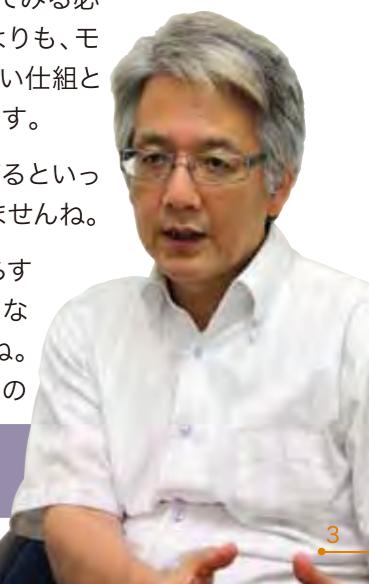
**乗光** 全員が同じスタンスを持っていないと難しいですが、以前、知り合いの重度の身体障がいの方が一人暮らしされ、その時は50人ぐらいの介護者の登録を持っていました。一人暮らしの重度の身体障がいの人を見るとなると、それくらいのボリュームが必要です。50人となると、シェアハウスで暮らす人たちだけでなく、その周りで暮らす人も関わる体制を作らないといけません。正式な職員、支援の募金でやってくる職員、ボランティアと様々な人が関わる必要があります。ハードは別にして、年間どれくらいの単価がかかるか、そういうのを実際スタディーしてみる必要があります。個人がするというよりも、モデルとして仕組みが出来たら、新しい仕組として制度化される可能性もでできます。

**植松** 気の毒だから何かしてあげるといった情緒の世界から脱しないと続きませんね。

**乗光** こうしたシェアハウスで暮らす人は、それなりのトレーニングをしないと長く続けられないと思いますね。コーディネーターがいて、障がい者の



◀ 乗光秀明(当理事長)

植松潤治先生▶  
(湖北グリープクリニック院長)

## 理想のシェアハウスを考える



そうですね。そこに住んでもらうということを考えるとしたら、どんな条件ならいいでしょうか。

**植松** 重度の障がいの人というくりの中では医療は切っていけません。シェアハウスに医療が入るのがベストですが、それとは別に今、全肢連の重度の障がい者の住まいのあり方というプロジェクトを立てて調査が始まっていますが、その中のキーポイントは、医療的ケアをどう支えていくかということなんです。重度の障がいのある人たちを専門医だけが診るのではなくて、まちのお医者さんならどこでも見

てもらえるという仕組が必要です。「一診療所、一障がい児」。一つの診療所のテリトリーの中にいる障がい児はそこでずっと最初から診てあげるよ、というくらいの幅広いネットワークを作っていくことで、まちの中でも重度の子どもたちが生きやすくなるのではないかとおもいます。

**植松(久)** そこに大学生や若い労働者に関わってもらうとなると、場所的には大学や大きな会社の近くがいいですね。そして、1階はケアホームをして、2階を学生さんがシェアハウスの部屋にして、家賃を半額にするとかして若い人が活性化するようなことも工夫として入れていくといいですね。

**植松** ご飯付きの下宿ですね。そのかわりに介護をしていただく。そういうポリシーを立ててやったら、おもしろいといって寄ってくる学生や若者がいるかもしれないですね。そういう人が3人、4人いたら、キーパーソンになって他の友達を連れてくる可能性も大いにあります。

**乗光** この場合の募集は薄く広く情報を流すキャンペーンにお金をかけた方がいいですね。どれだけ意義を説得しても、しがらみで付き合っているだけの人は難しいし、長続きしません。結局は感覚的に合う人なんだと思いますね。えてして、決まる時には口説かなくてもあっさりと決まるものです。

**植松** 「介護ボラつきシェアハウス」ですね。

**乗光** 私たちの三十年來の夢ですから。

性格等をシェアハウスで関わる介護する人に教育し、無理だったら人が入れ替われる仕組も必要だと思います。

**植松(久)** キーパーソンになる人はすごくハードルが高いですね。

**乗光** 人格的に練れた人が絶対に一人は必要です。しかも障がい者だけじゃなく一般の人たちとの関係もちゃんと調整できる人です。しかし、そんなに突飛な提案だとは思っていないんです。私も制度ができる前に自宅で生活ホームを1円の援助もなく運営していました。

**植松** 国の制度では、グループホーム、ケアホームの最低基準が4人となっていますが、例えばホーム2か所(合計8名)を1セットで考えて、各ホームに重心の子が1人ずついて、2か所を統括するキーパーソンを1名配置するという仕組でも良いと思うんです。それくらいの配置バランスですと、介護量も何とか確保できないかなあと思ってます。

## 障がい者と共に暮らすシェアハウスの条件は?

**植松(久)** 娘は学生時代、障がい者の家に泊りにいくボランティアをしていたんですが、そのかわり夕食が食べられるということで、学生が順番に泊りに行っていたそうです。

**乗光** 実際あるんですね。福祉の学校と組めばやっていけ

## まとめ

鼎談の途中で参加された娘さんに、シェアハウスの条件を聞くと、「義務になると、したくない時に辞められないのは辛い。家賃が安いだけじゃなくて、コンビニとか環境が整っていないと難しいし、学生の場合お金を出るのは親なので、親が不安だと難しい」という意見。当事者が思い描く以上に現実味のある意見で新鮮でした。同じ目的を持って意思を固くというよりか、断念した時は出て行き、また新しい人が入ってくるといった賃貸住宅のようなファジーな感覚も必要なのではないかと思いました。

そこには、鼎談の中にあるような、確かなキーパーソンが必要です。今後は舵を取る人材を育てていくのも大きな課題になっていくような気がします。障がい者と共にシェアする暮らしを考える場合、有志や個人の努力だけでもだめ、家族だけで踏ん張るのも限界が見えている。そして制度で全てを賄うことも困難だ、という三すくみの状態を逆手にとってみたら、制度+互助+有志+家族という色々な要素のハイブリッドという新しい俯瞰図が見えてくるのだと思います。

## レポート

## 第57回 滋賀県 肢体不自由児者福祉大会が開催されました!!

開催日時:6月30日(日) 開催会場:ひこね姫ばれす

今回は「災害時要援護者支援のあり方」を大会テーマに掲げました。

講演会に先立って、「障がい児・者との共育・共生をめざす作文」の受賞者4名への副賞授与式、続いて、原田果歩さん(守山南中学校三年)に理事長賞作品「妹」を朗読していただきました。受賞者自身による作文朗読は今大会からの試みです。障がいのある妹さんへの深い愛情が伝わって来て、おおきな感動を呼びました。

講演会は、滋賀県健康福祉政策課の長家正之氏による「災害時要援護者支援」と相楽福祉会の坂東敏和氏による「震災支援で感じたこと」の二部構成としました。

東日本大震災の甚大な被害を受け、要援護者が安全に避難できるよう「全体計画」「要援護者名簿の整備」「個別計画」の策定が進められることを学びました。また、「自助・共助・公助」による地域防災力を社会資源として構築することの重要性を学ぶ機会ともなりました。



▲「障がい児・者との共育・共生をめざす作文」受賞者のみなさん



▲会場にはひこにゃんも登場

今大会を通じて、わたしたち父母の会として、支援者、地域住民、そして行政とのつながりをさらに深めていくことの必要性を感じました。また、父母の会・会員相互のつながりをより深め、いざというときに助け合うことができる関係性をしっかりと構築していくことをあらためて確認することができました。

## 父母の会初総会が開催されました!!

福祉大会に先立ち、午前中には新規約にもとづき初総会が開催されました。代表には植松潤治前会長が選任され、副代表には山里純利前事務局長が選任されました。事業計画(案)について、近畿大会、療育キャンプ、全国大会等の研修事業についての説明がありました。会員さんの高齢化もあり、研修事業への参加者が減少していること、他の府県でも同様の傾向が見られ、新会員の加入および組織力の向上が課題であることが報告されました。予算(案)についても可決承認され、初総会を閉会しました。

また、各支部から活動報告をしていただき、新生父母の会として組織強化を図ることが確認されました。

湖南ホームタウン地域貢献事業  
「おたがいさんネットワーク(=ONW)の紹介」

かいづりハウス(湖南ホームタウン)の理念には「福祉の街づくりの拠点になる」ということがあります。平成18年9月に施設が開設し、はや7年が経過しました。開設当初は施設運営に奔走していたのが現状でしたが、そろそろ理念の具体化に向けて取り組みたいと考えています。そこで昨年度より、地域貢献プログラム=おたがいさんネットワークを設立しました。このネットワークは、地元守山市をはじめとした周辺の地域社会において、先駆的・開拓的に地域貢献に取り組んでいる市民活動・ボランティア団体などへの支援を目的とした独自のネットワークシステムです。支援させていただく内容としては、会員のみなさんからの寄付金・アイデア・労力などを、市民活動やボランティア団体へお届けしています。そして、そのような取り組みを通じて、湖南ホームタウンの理念である、「福祉の街づくり」に貢献していきたいと考えています。



# インフォメーション



## 親子療育キャンプの開催について

日時 平成25年10月12日(土)~13日(日)※一泊二日

会場 長浜ドーム(宿泊:長浜ドーム宿泊研修館)

定員 中学生までの親子10組

参加費 お一人様6,000円(12日昼食・夕食、13日朝食含む)

主催 滋賀県障害児者と父母の会連合会

内容 ①ボイタ法の案内と体験  
②親子で楽しもう!!~作業療法の視点から見る子どもたちの可能性~  
の2班(各5組ずつ)に分かれて参加していただきます。

## 守山市いけばな展に参加します

日時 平成25年10月19日(土)・20日(日)  
9時~17時※最終日は16時まで

会場 守山市民ホール集会室

### スケジュール

#### 1日目

- 11:00~ 受付開始
- 12:00~ 昼食
- 13:30~ 療育活動・生活支援
- 16:00~ 宿泊所にて夕食・レクリエーション等

#### 2日目

- 10:00~ 長浜ドーム集合
- 10:15~ 研修会
- 12:00 終了

## Dr.植松の Q & A



### 植松潤治先生プロフィール

湖北グループクリニック 院長

日本小児科学会専門医  
日本小児神経学会専門医

日本リハビリテーション  
医学会認定臨床医

平成元年滋賀医科大学卒業。医学博士。介護支援専門員。日本小児科学会、日本小児神経学会、日本リハビリテーション医学会所属。

### Q

## マイコプラズマ肺炎とは、 どんな病気なのですか？

肺炎マイコプラズマという細菌による呼吸器感染症で、患者の約80%は14歳以下の小児ですが、大人の感染もあります。かつてはオリンピック開催年に流行することが多かったのですが、2000年以降はそのような周期は見られず、むしろ年々増加しています。

感染経路は、患者の咳のしぶきを吸い込んだり、濃厚な接触で感染することが知られています。最初は、発熱・全身倦怠感・頭痛など比較的軽症で、遅れて咳が出てきます。発熱などの症状が消失しても咳がその後、2~3週間残ることも特異的な症状です。胸部レントゲンで肺炎かどうかは診断可能です。髄膜炎等、重症化することもあります。最近では、血液検査に加え遺伝子検査も出来るようになりましたので、疑わしい場合は積極的に検査を受けてください。



詳しくは厚生労働省ホームページを参照してください。  
[►http://www.mhlw.go.jp/](http://www.mhlw.go.jp/)

# トピックス

## 「水害対応に関する取り組み」というテーマで、 NHK大津放送局の取材を受けました。

平成25年6月26日(水)、湖北タウンホームにてNHK大津放送局の取材を受けました。

7月1日夕方に放映された内容は「長浜地域の福祉避難所における、水害対応に関する取り組み」と云った視点での放送内容になっておりました。

当日お越しいただいたびわこ学院大学の鳥野猛教授からは、水害に係る対策についてのお話も当然伺いましたが、防災を専門に研究されていることから、取材の時には『災害』全般に関わって福祉避難所として当施設が想定している対策を報告し、とり組むべき課題を教えてもらいました。

とくに施設運営で『情報』の収集と利用においては、日頃から利用者の情報をより丁寧に細かく知っておく必要があることから、看護・介護サマリー等に様々な情報を細かく記載するクセが備わっています。

ところが有事



においては、その細かな情報が「必要最低限の知つておくべき情報」を把握しにくくなっていたり、突然利用されるとなった方に対する聞き取りが「丁寧すぎる聞き取り」によって情報収集に半日かけても「3~4名しか聞き取れないということ」があり得るという、重大な課題に気付かせてもらいました。

今回、原発事故などによる「当施設を利用できなくなった時」という最も恐れている事態に対する回答は頂けず(答えようがなかったのでしょうか)残念でしたが、今後に活かすことのできる取材であったと感謝しています。



## 縁の下の力もちサン

ご支援ありがとうございました!  
(平成25年5月~平成25年7月分掲載)

### 寄付金

【湖北タウンホーム】榎並由希子様、乗光秀明様、岩口由紀様

【湖南ホームタウン・滋賀県障害児協会】乗光秀明様、持田とし子様、藤居さ枝様

【滋賀県障害児者と父母の会連合会】大槻郁子様、山中直樹様

### ボランティア

【湖北タウンホーム】

小崎満智子様、古脇慶子様、伊藤ゆきゑ様、赤井淑子様、虎姫老人会様、日赤奉仕団様

【湖南ホームタウン】

吉身学区社会福祉協議会ボランティア部会ボランティア登録者様、車椅子レクダンス矢車草の会様、レイカディア大学34・35期生様、楽々20様、北川英次様、森田孝子様、村山晴美様、西村孝代様、吉岡信子様、三本栄子様、茶谷正子様、樋口操子様、大倉ミヤコ様、芝田規子様、津田貞子様、津田善之助様、勝部良弘様、堤つね様、林田博恵様、山田晃子様、寺井美耶様、美濃部文代様、谷口早苗様、近藤欣子様、藤森君代様、森とし子様、戸梶恵美子様、川村栄司様、森田美紀様、根来好子様

### 物品ご寄付

【湖北タウンホーム】

日赤奉仕団様、石田順三様、岡田玲様、大石友子様、松宮久江様、木曾治療院様、楠和世様、平川治療院様、進々堂商光様

【湖南ホームタウン】

青木えい子様、北川英次様、中川明子様、中村喜代司様

書き損じハガキが  
ございましたら、  
父母の会事務局まで  
よろしくお願いします。

# 障害者権利条約ってなに?

シリーズ第17回目  
“意識の向上”のために  
できること

イラスト:小林一美

先入観や偏見は簡単に身近に入り込んで、無意識のうちに、偏った考えが植えつけられていることもあります。特に接する事の多い学びの場やメディアには、そのような土壌を生み出さないよう、高い意識の指針を表してほしいものです。



障害者権利条約から  
部分的に抜粋して  
ご紹介します。

第8条  
意識の向上 より…

## 第2項

- (b) 教育制度のすべての段階…尊重する態度を育成すること。
- (c) すべてのメディア機関が、この条約の目的に適合するように障害者を描写するよう奨励すること。

障害者の権利に関する条約和文テキスト(仮訳文)より。

※外務省ホームページをご覧下さい。

障害者に関する法は、リハビリテーションや福祉の観点から考えることが多いですが、障害者権利条約は人権の視点、障害者の視点から作られた条約であることが特徴的です。

## 滋賀県心身障害者扶養共済制度

この制度は、各都道府県が障がい者の保護者の相互扶助の精神に基づき、保護者死亡後の障がい者に終身一定額の年金を支給することにより障がい者の生活の安定と福祉の増進に資することを目的とします。加入者数は、口数ベースで、82,260人、年金受給者は、49,467人となっております。(平成23年度現在)加入者・受給者の皆様、住所等の変更がありましたら、扶養共済窓口までご連絡ください。

■扶養共済窓口  
TEL:0749-73-3910 FAX:0749-73-3920



## いつも元気でね健診



かいづり診療所では、障がいのある子どもを育てるご家族を対象に、血圧・血液検査などの健康診断を行なっています。保育・療育完備です。詳しくは下記までご連絡下さい。

お申込・お問い合わせはかいづり診療所まで

**TEL:077-514-1715**

## 赤い羽根共同募金



社会福祉法人滋賀県障害児協会では、赤い羽根共同募金(社会福祉法人滋賀県共同募金会)からの配分を受けて、かいづり通信の発行をしています。



<http://www.akaihane.or.jp/>

赤い羽根共同募金ホームページ



### 編集後記

力強い入道雲と蝉の声がいつのまにか消えて、高くて青い空と、優しい虫の音が美しい季節になりました。施設も文化祭が賑やかに開催されて、すっかり秋の空気が漂っています。地球温暖化のせいか、春と秋が短くなったと言われる昨今ですが、それでも気持ちの良いこの季節を、ゆっくり味わいたいと思います。(奥村)

### 【編集人】

社会福祉法人 滋賀県障害児協会

〒524-0022 滋賀県守山市守山町168-1 かいづりハウス内  
[TEL]077-514-1685 [FAX]077-514-1702 [URL]<http://open-mind.jp>  
[E-MAIL]kaitsuburi@open-mind.jp

滋賀県障害児者と父母の会連合会

〒524-0022 滋賀県守山市守山町168-1 かいづりハウス内  
[TEL]077-583-6395 [FAX]077-514-1702  
[URL]<http://hubonokai.open-mind.jp> [E-MAIL]info2005@open-mind.jp

■ 1984年 8月20日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 ■ 発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F 定価100円